

いという話から、さまざまあつて途中で駄目になるかもしれないと思いましたが、5年経つてから映画を撮ることが決まり、私もロケ現場に招待され、背景となる町を見ました。すごく美しい町で、素晴らしい映画になるんじゃないかと感じました。

竹内 今回上映した『遙かな町へ』フランス版（日本語字幕付き）は、2月下旬にDVDとして全国発売する予定です。ぜひ、全国のみなさんに見ていただきたいですね。

鳥取発の漫画文化

竹内 漫画の文化を鳥取の一つの特徴とし、特色ある資産として情



DVD『遙かな町へ』フランス版

発売日：2月27日（水）

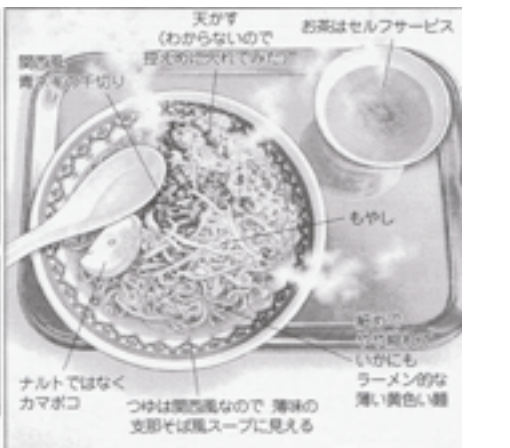
※鳥取県内は2月20日（水）

価格：2625円（税込み）

発売元：小学館集英社プロダクション

販売元：メディアアファクトリー

報発信に取り組んでいることについて、どのようにお考えですか。
谷口 漫画家は本当に閉じこもって少人数で仕事をする職業です。まんが博などの開催は全く想像していませんでしたが、漫画が地域の発展に役立つのかなということ、少しずつ感じてきました。



「孤独のグルメ鳥取編」©久住昌之／スクワロー／扶桑社／市役所食堂のラーメンの緻密な描写が話題になった

していききたいと思っています。漫画は、日本が持つ独特の文化です。鳥取からこうした取り組みを行っていくことは、価値のあることと考えてよいでしょうか。
谷口 そうですね。米子市で開催された国際マンガサミットで、鳥取や倉吉にも行ってきたという韓国の方がいました。その方が次の人に話をして、また来てくれるんじゃないかと感じましたね。

竹内 なるほど。地域の活性化につながるのだと感じますし、今後も発信を続けたいと思います。今回は3回目となる原画展でした。映画『遙かな町へ』の上映会、鳥取市マンガフォーラムと、一連の活動を体験されて、どんな感想をお持ちでしょうか。

谷口 原画を展示してもらったり、フォーラムに出たり、鳥取市の力で翻訳されて映画が上映できたことは、本当に感謝しています。興奮が冷めてからだと色々考えられると思いますが、今は本当にありがたい気持ちで一杯です。

竹内 ありがとうございます。先生からそう言っていただけで大変うれしく思います。フォーラムなども1回で終わるのではなく、



昨年ギャラリーそらで開催された原画展Ⅲ

若手漫画家との交流

竹内 他の漫画家との交流はいかがでしたか？

谷口 鳥取出身の若い漫画家が増えてきていて、これからは私だけに限らず、鳥取で活躍されている岩田廉太郎さんやいろんな方の力を借りて、何かできるような予感がしました。

何かをずっと続けていくためには、やはり若い人や新しい漫画家に声をかけて、どんどん発展していくことが大事だと思います。

竹内 ふるさと鳥取の地から漫画文化の情報発信をしていけるよう努力をしていきたいと思っていますので、今後も鳥取県内の漫画家のみなさんで、ネットワークを広げていただければと思います。
谷口 なかなか漫画家というのは



さジアストロパークの望遠鏡をのぞき込む谷口さん

漫画家 谷口ジローさん

昭和22年鳥取市元魚町二丁目生まれ。鳥取商業高等学校を卒業後、県外で就職。仕事のかたわら漫画を描き始め、昭和46年「唄れた部屋(ヤングコミック)」でデビュー。以来、多くの作品を発表し、現在に至る。その作品は、国内だけでなくアメリカ、フランス、スペインなど海外でも出版され、国際的にも高い評価を得ている。2011年、フランス政府芸術文化勲章シュヴァリエを受章。



谷口ジローさんの主な作品

➡『遙かな町へ』
倉吉が舞台。中学時代にタイムスリップした主人公が人生を問い直す。フランスで映画化/小学館



➡『父の暦』
わだかまりを残したまま亡くなった父の追憶。故郷鳥取を舞台に描いた渾身の代表作/小学館



➡『孤独のグルメ』
ふらっと立ち寄った店で昼食。日常の何気ない風景を描いたグルメ漫画/扶桑社・久住昌之原作



➡『ふらり。』
全編を通して描かれる江戸の四季と、ゆつたりとした風情が心地よい江戸版「歩くひと」/講談社



➡『凍土の旅人』
ジャック・ロンドンの原作を元に描いた狼との攻防、マタギと大熊との対決「山」などを収録/小学館



➡『天を飼うと12の短編』
自身の体験を元に、愛犬の最期を描いた珠玉の短編などを収録。小学館漫画賞特別賞作品/小学館



外に出なくて、人との交流が苦手な方なので、若い人たちにはもう少し交流の場を提供できればどうかと思います。

Taniyuchi Jiro

竹内 さジアストロパークが発見した小惑星に「Taniyuchi Jiro」と命名したことが、2012年2月7日、最終的に世界の天文学の機関で承認されました。谷口先生も喜んでおられると聞いております。

谷口 まさか自分の名前が星の名前になるなんて。喜びの気持ちを

どう表現してよいかわかりません。知り合いからも大変なことだよって言われたのですが、いいんだらうかと考えたりもしました。本当にびっくりしています。

今後の構想

竹内 鳥取の地で『父の暦』の映画化をと思いをさせている方がたくさんおられますが、これに関してはいかがでしょうか？

谷口 映画化が決定するまでには長い時間がかかることは『遙かな町へ』で体験しましたので、そう簡単にはできないことは分かっています。

います。ただ、映画化されたら自分にとって最高のことだと思えますし、期待しています。

竹内 本市では、全国に向けての情報発信や漫画を活かした文化振興として、鳥取市東部を舞台にしたストーリーを募集し、入賞作品は鳥取出身の漫画家によって作画され、漫画短編集として出版する事業を実施しています。これについても、またご協力をいただきたいと思っております。

谷口 審査委員長ということで、ストーリーを漫画の形にする編集作業など、難しいかもしれません。

んが、はじめの第一歩の試みとしてやっていきたいと思えます。

竹内 最後に鳥取のみなさんにメッセージをお願いします。

谷口 自分の漫画がこんな形で大きく取り上げられて、少しでも鳥取の発展に役立てることは、すごく嬉しく感じています。まんが博みたいなものが、鳥取で定着されることを期待しています。

竹内 ぜひ、これからも長く活躍していただき、鳥取にとっても、日本の漫画文化にとっても、大きな足跡を残していただくことを心からご期待申し上げます。